

ずいそう

時計の中の小宇宙，1/64 スケールの車

村 東 浩 隆



私の専門分野は機械です。振り返ると小学校の高学年から現在まで、時計やミニチュアカー、鉄道（主にはブルートレイン）、戦車プラモデル等々思い返すとたくさんの機械に関する趣味に没頭してきました。

途中で断念したもの、子供のことから継続しているもの、大人になり再復活したもの等ありますが、冒頭のとおり、「機械屋」ですので、機械にまつわる趣味についてふれてみたいと思います。

■ 時計の中の小宇宙

コンプリケーション（複雑機構）タイプの腕時計にはまると、これが厄介なのです。なぜなら中々購入できないし、雑誌やカタログでの世界ではストレスが貯まってしまうからです。ですから定期的に新作ものや興味をもっている時計を鑑賞しに新宿や横浜へ足をのばしています。

さて、腕時計には大きく分類すると機械式・クォーツ（水晶）とに分けられますが、前者には、ぜんまい式と自動式、後者には、デジタル・アナログ等あります。最近では、電波時計もよく見かけますね。ちなみに自分は機械式のもの大好きです。それは、時計の持つ、限られた空間（容積）の中に、色々な複雑機構を収納し、時を刻むということにロマンを感じるからです。

また、コンプリケーションにはたくさんの種類があります。主なものは、1. パワーリザーブ 2. ムーンフェーズ 3. レトログレード 4. 永久カレンダー 5. ミニッツリピーター 6. スプリットセコンド・クロノグラフ 7. トゥールビヨン等があります。この中で自分が一番好きなトゥールビヨンですので簡単に紹介します。

この機構は、かの天才時計士「アブラハム・ルイ・ブレゲ」の発明した機構で、簡単にいうと機械式の一番弱点である重力による誤差を補正するために主要な部品群をある一定の方向に常時回転させてしまうといった非常に高度な機構（技術）です。数千万円するものが殆どですので自分の物にすることは夢物語ですね。（宝くじにでも当選しない限りは…）また、世界でこの機構を組み上げる時計士が10数人しかいないと言われてしますので、まさに神の手だと思えます。

最後に、振動数（これは、時計のカチカチという音

源です。）ですが、皆さん1秒間にどのくらい振動していると思われますか。世界最速は10回です。一般的には1秒間に8回以上（8～10）振動するものを、ハイビート、それ以下（4～6）がロービートと言われています。それぞれ、一長一短があるのですが、私はこのハイスピードに魅力を感じてしまいます。

ベゼル寸法は概ね40mm程度で厚みが20mm程度の中に、これらの複雑機構等を組み込むことに執念を燃やしている時計技師と時計との闘い。この時計の中に小宇宙が存在していると思いませんか。

■ 1/64 スケールの車

小学校の高学年のころ、スーパーカーブームがやってきました。実物を目にすると、それまで目にしていた国産車との違いに、これはなんだ！と敏感に反応した記憶が蘇ってきます。ランボルギーニ・カウンタックやフェラーリといったスタイリッシュな形状にただ単純にかっこいいあと胸を躍らせていました。憧れは憧れで、子供ながらにいつかは乗ってみたいと思っていましたが、現実には、そう甘くはありませんでした。この時の純粋な記憶が、今の、ミニカー収集に継続しています。現在、約500台を保有しています。

ミニカーは、世の中にどのくらい種類があると思いますか。残念ながらネットでも調べてもわかりませんでした。以前、日本でもトップクラスのコレクターのお店に伺って聞いたところ、その方は2万台以上お持ちでした。この方は、世界各地まで収集の旅に出ているようで、且つ、ミニカー用の倉庫もお持ちでした。今思えば推測ではありますが、3万台ぐらいいはあるのでしょうか。

スケールは1/18や1/43、1/64サイズといったのがポピュラーですが、大きければそれだけ再現性は優れていますがコストがついていけません。お手ごろサイズの『1/64サイズ』を中心に収集しています。ケースに並べて鑑賞しているだけでも、結構心が落ちつきますよ。

最後に、これからもこの趣味は続けていきたいと思えます。継続は力なり！一番、好きな言葉です。